フロラ茨城　No. 1　1958年9月

フロラ茨城の会（水戸市東町5131，電話3883　長谷川貞夫方）

発刊に際して　長谷川貞夫

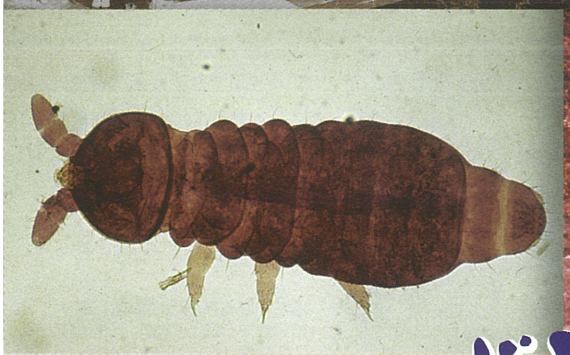
昭和33年8月4日，NHK第二放送で私の「野のくさ山くさ」について，私の山小屋より約15分に渉り放送致しました。草を語り樹を愛して15年，今では四季を通してとりどりの花が絶間なく観賞出来，時には見学団で賑う時があります。私の一生を通じ，初の放送でもあり，おそらく之が最後のものである事と感激し，何か記念にと考えた末，茨城大学教授松藤正巳氏及鈴木昌友氏と相談致しまして，今回「フロラ茨城」を発刊する事に致しました。門外漢のこの私が何をやらかすか分りませんので，先輩並に同級各位の格別なる御指導を賜り度く，謹に御願い致す次第です。

長谷川貞夫：さぎ草

水戸市の西南，丹下に湿地帯があり，八月としれば写真の様な「さぎ草」の群落がある。宿根から約30cm 余の茎を出し，葉は狭長，尖っていて，花は白鷺の飛立ち様に似ている。夏の野草で私の一番好きな，そして自然の神にしみじみと感謝したくなる植物である。写真は本年7月20日私の庭の鉢植えのものです。培養は簡単で，素人でも咲かせる事が出来ます。

鈴木昌友：茨城県のネコノメソウ属植物

ネコノメソウ属の植物については，東大の原寛教授が1939年に大日本植物誌ユキノシタ科に，主として日本産のものを，1957年に東大紀要で世界のネコノメソウ属を発表しておられる。茨城県のネコノメソウについては，すでに我々の「茨城県植物目録（1956）」に7種，斉藤郁内氏の「自然をたづねて（1957）」にも7種が記されているが，例えばコガネネコノメソウ　シロネコノメソウ（斉藤）の如き再検討を要する種類や，新たに採集されて追加すべき種類がある。筆者は茨城県の各地で自ら採集した標本を究にして，茨城県産のネコノメソウ属の分布を明らかにしたいと思う。なお標本の一部は，原教授の同定を受けた，ここに深謝なる厚意を表する。なお標本の整理に協力してくれた茨大学生の谷中，内ケ崎，杉山の諸君に感謝する。



開館15周年記念
特別展示

いばらきの自然を語る

—博物館に集うコレクションと人々—

2009年1月31日(土)▶2月22日(日)

＊1月31日（土）は、午後1時からの公開となります。

■開館時間　午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
■休館日　毎週月曜日
■入館料　大人　520円（420円）＊（　）内は20名以上の団体料金です。
高校・大学生　320円（200円）＊未就学児，満70歳以上の方，障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
小・中学生　100円（50円）＊この料金には，本館内常設展・野外施設入場料が含まれています。
＊毎週土曜日は，小・中・高校生は入館無料です。
■主催　ミュージアムパーク茨城県自然博物館
■共催　NHK水戸放送局
■後援　茨城新聞社・ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
■関連イベント　記念シンポジウム「茨城のナチュラリストに聞く」
2009年1月31日（土）　13：00～16：00

■交通案内
●車利用の場合
・常磐自動車道谷和原ICから20分
●鉄道，バス利用の場合
・つくばエクスプレス守谷駅，下車～関東鉄道バス「岩井行き」又は「猿島行き」乗車～「自然博物館入口」下車，徒歩5分
・JR柏駅で東武野田線乗り換え，愛宕駅下車～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車，徒歩10分

■次回企画展のお知らせ
●第45回企画展
「竹—しなやかな空間への招待—」
2009年3月14日(土)～2009年6月14日(日)

ミュージアムパーク
茨城県自然博物館
〒306-0622　茨城県坂東市大崎700番地　TEL 0297-38-2000
ホームページアドレス　http://www.nat.pref.ibaraki.jp/

開館15周年記念
特別展示 いばらきの自然を語る
—博物館に集うコレクションと人々—

1994年に開館した茨城県自然博物館は，県下における自然史研究の発信源ともいうべき機能が期待される場所です。そして館の設立の経緯や，開館当初に集められた自然史情報の提供源を調べていくと，多くの自然史研究家や団体の存在を忘れることが出来ないことに気づかされます。こうした層の厚い在野のパイオニアの支えがあってこそ，現在の茨城の自然史研究は成り立ってきたといえます。

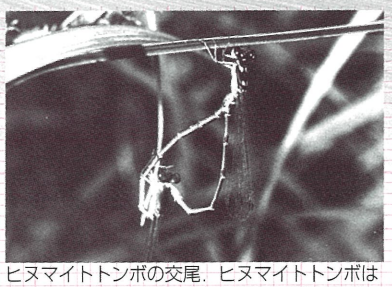
しかし，そうした多くの自然史研究成果は，学会誌などに発表されたごく一部のものを除き，年月の中に埋もれはじめてきています。今ここで，さらなる茨城県での自然史研究発展の未来に向けて，茨城県でのパイオニアたちの仕事，つまり自然史研究の系譜について振り返ることは意義があるのではないでしょうか。

牽引者たちが地道なフィールドワークで集めた標本や資料を一堂に展示し，その歴史をたどると共に，今後の牽引者となるべき自然博物館での自然史研究の紹介も行います。

茨城大学による花園神社での植物調査．左から二人目鈴木昌友氏，三人目佐藤正己氏(1958年)．

鈴木昌友氏により1980年に命名されたヒタチクマガイソウのタイプ標本（茨城県自然博物館所蔵）．

茨城大学涸沼臨湖実験所の開設当時に，涸沼で調査をするスタッフ（1955年）．


ヒヌマイトトンボの交尾．ヒヌマイトトンボは1971年に涸沼で発見され，翌年，朝比奈正二郎氏によって命名された．

細貝利夫氏が常陸大宮市で採集した，新種の植物化石．葉縁，葉脈がよく保存されている（茨城県自然博物館所蔵）．

茨城県高等学校教育研究会地学部による日立市での調査．大雄院層の露頭でサンゴの化石などを調査した（1957年）．

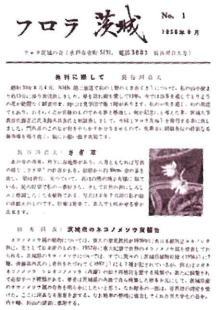
田切美智雄氏らによって形成過程が明らかにされた石岡市吉生の球状花崗岩（茨城県自然博物館所蔵）．県指定天然記念物．

ヒヌマイトトンボを最初に見つけた小菅次男氏(左)と廣瀬　誠氏(右)．涸沼のヨシ原にて．

竜ヶ崎一高地学部による筑波山での岩石調査．はんれい岩やペグマタイトなどを調査した（1967年）．

茨城県自然博物館の総合調査研究で発見された新種ツクバムラサキトビムシ（茨城県自然博物館所蔵）．

筑波山自然研究路で実施された観察会，茨城生物の会が発足した年に開催された(1973年)．

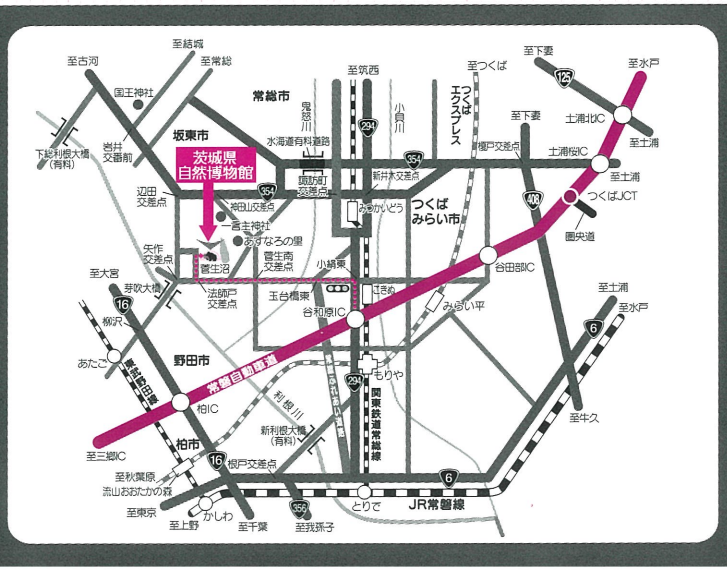

フロラ茨城　No. 1
現在も続く茨城の植物相を著す同人誌「フロラ茨城」1958年の創刊号．

■展示構成

第1部
標本が語る茨城のナチュラルヒストリー
当館に収蔵されている貴重なコレクションをもとに，茨城県のナチュラリストの業績を，全18テーマで紹介します。「自然博物館をつくった標本」「コケに命をかけた青年」「ミズダニ研究に捧げた生涯」「菅生沼の鳥40年」「地学教育と茨城の地質」「関東平野の12万年前を語る化石たち」など。

第2部
標本は永遠の宝物
標本を集める意味は一体どこにあるのでしょうか。また集められた標本はどのような形や手順で博物館に収蔵されるのでしょうか。実際の数々の標本とともに解説します。

第3部
茨城のナチュラルヒストリーのこれから
茨城県でのこれまでの自然史研究の編纂成果を一堂に紹介するとともに，今後の自然史研究の方向性や，自然博物館がになう役割について提案します。



■交通案内

● 車利用の場合
・常磐自動車道谷和原ICから20分

● 鉄道，バス利用の場合
・つくばエクスプレス守谷駅下車
↓
関東鉄道バス「岩井行き」又は「猿島行き」乗車
↓
「自然博物館入口」下車，徒歩5分

・JR柏駅から東武野田線乗り換え，愛宕駅下車
↓
茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
↓
「自然博物館入口」下車，徒歩10分